

平成23年11月25日

ボーイスカウト県内各団
団委員長様

日本ボーイスカウト岡山連盟
事務局長 今田 惇治

「第11回日本アグーナリー大会」の基本実施要領等の送付について

来夏、滋賀県で開催されます「第11回日本アグーナリー(国際障がいスカウトキャンプ大会)」の基本実施要領等を送付しますので、団内に周知され、積極的なお取り組みをお願いします。

ボーイスカウト日本連盟創立90周年記念事業

第11回日本アグーナリー (国際障がいスカウトキャンプ大会)

基本実施要領



滋賀県・希望が丘文化公園
平成24年8月2日(木)～6日(月)



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

◆開催にあたって

日本アグーナリーは、4年を周期に、障がいのあるスカウト（特別な配慮を必要とするスカウト）が相集い、海外を含めた多くのスカウトたちとのキャンプ生活を通じて、スカウト仲間としての心の触れ合いと共通体験の中から、明るい希望を持って積極的に社会生活に参加することを目的に開催されてきた。第8回大会までは、障がいのあるスカウトの大会としていたが、第9回大会では、単に障がいのあるスカウトのためだけの大会ではなく、参加するすべてのスカウト・指導者が、期間中の諸活動を通じて共に生きることを学ぶ「学習の場」とし、第10回大会以降は、障がいの有無や老若男女にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う「共生する社会」を実現するという社会のニーズに応えることを目指す。

◆大会の目的

日本アグーナリーは、キャンプを通じて、自信と勇気に満ちた生活態度を身につけ、発達障がいを含めた障がいについての理解を深め、人格と個性を尊重し支え合えあう社会の実現を目指すことを目的に、次のコンセプトに基づき開催する。

◆コンセプト

「チャレンジ・交流・希望」をコンセプトに、大会の運営・生活・プログラム等に反映させる。

◆テーマ

「We can! あなたといれば・・・」

◆会 期

平成24年8月2日(木)の開会式から8月6日(月)の閉会式まで

◆会 場

滋賀県・希望が丘文化公園（滋賀県蒲生郡竜王町薬師1178 <http://www.shiga-kibougaoka.jp/>）

希望が丘文化公園は豊かな自然に恵まれた、東西約4km、南北約1km、野洲市、竜王町、湖南市の3市町にまたがり、面積416ヘクタールに及ぶ総合文化公園で、公園内は、大きく文化ゾーン、野外活動ゾーン、スポーツゾーンの3ゾーンに区分され、今大会は公園の中核的な施設である青年の城を拠点にして開催する。



(会場までの交通案内)

●電車バス利用

JR琵琶湖線「近江八幡駅」より
近江鉄道バス「希望が丘青年の城
(東ゲート)行」約30分(運賃:640円)

●車利用

名神高速道路 竜王インターチェンジ
より約5分。東ゲートより入園

(希望が丘文化公園ホームページより抜粋)

◆参加者と参加資格

参加者は、参加隊および本部スタッフに区分され、参加人員・参加資格は、次のとおりとする。

参加人員 (総計1,000人)	参加資格
1. 参加隊 (500人)	<p>※平成24年度加盟登録を完了し、全期間参加できる者</p> <p>※参加隊を編成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団で各部門混合の参加隊を編成して参加する ・障がいのあるスカウトと隊を編成することが望ましいが、障がいのあるスカウトとの交流を希望する隊の参加も奨励する ・参加者の少ない団（隊）は近隣の団（隊）と協議のうえ、混成隊を編成できる。ただし、参加申し込みは団単位で行う
<スカウト>	<p>※障がいのあるカブスカウト、ボーイスカウト、ベンチャースカウト、ローバースカウト</p> <p>※日常一緒に障がいのあるスカウトと隊活動している者、もしくは、一緒に隊活動をする希望のある者</p>
<隊指導者>	<p>※1人はWB研修所を修了していること</p> <p>※複数の団（隊）で混成の参加隊を編成する場合は、必ず各団から有資格の隊指導者が参加する</p> <p>※介添者は隊指導者として参加する</p> <p>※介添え保護者は加盟員でなくとも良い</p>
2. 本部スタッフ (380人)	<p>※平成24年度加盟登録を完了し、全期間奉仕できる者</p> <p>※生年月日が、1997年4月1日以前の者（平成24年度内に16歳以上）</p> <p>※ベンチャースカウト、ローバースカウト、指導者ならびに都道府県連盟・日本連盟の役職員。但し、チャイルドプロテクションにより、成人（生年月日が1992年8月2日以前の者：開会式時20歳以上）と未成年者（20歳未満）の生活は分離する。</p> <p>※日本連盟が要請する各分野における専門家（専門技能を有するインストラクター・協力者等は、加盟員でなくてもよい）</p>
3. 外国参加者 ガールスカウト (50人)	<p>※日本連盟招聘事業等により招待する者および自費で参加する者で、いずれも所属国連盟の参加承認を得ている者</p> <p>※ガールスカウトにあっては、ガールスカウト日本連盟と協議のうえ、別に定める</p>
4. 一般 (70人)	ボーイスカウト加盟員でない者
<参加隊> (50人)	<p>※中学生・高校生年代を対象に、諸団体・一般の青少年の参加を歓迎する。</p> <p>参加資格・参加日程等は別に定める。</p>
<本部スタッフ> (20人)	<p>※生年月日が、1997年4月1日以前の者（平成24年度内に16歳以上）</p> <p>但し、チャイルドプロテクションにより、成人（生年月日が1992年8月2日以前の者：開会式時20歳以上）と未成年者（20歳未満）の生活は分離する。</p>

◆参加費と参加申込み

参加者1人あたりの参加費は29,800円とし、予納金と残金とに分割して納入する。

(予納金9,800円は予定申込時に、参加費の残金20,000円は確定申込時に納入する。)

<p>予定申込 と 予納金</p>	<p>1. 参加者は、所定の予定申込書に予納金9,800円を添えて、平成24年1月31日までに所属県連盟に提出する。</p> <p>2. 県連盟は、予定申込書と予納金をまとめ、平成24年2月15日までに日本連盟事務局に提出する。</p> <p>*予納金は、大会の準備のための経費として使用することから、他の参加者の予納金として振り替えることはできるが、払い戻しはしない。また、予納金は、参加確定申込の際に納入する他の参加者の参加費の一部として振り替えることはできない。</p>
<p>確定申込 と 残金</p>	<p>1. 参加者は、所定の確定申込書に参加費の残金20,000円を添えて、平成24年5月15日までに所属県連盟に提出する。</p> <p>2. 県連盟は、確定申込書と残金をまとめ、平成24年5月末日までに日本連盟事務局に提出する。</p> <p>*参加確定申込の際に納入する参加費の残金は、他の参加者の参加費に振り替えることはできるが、払い戻しはしない。</p>
<p>備 考</p>	<p>※参加費には、会期中の食費、参加章および配付資料等の費用、プログラム参加とその移動輸送費、会場の設備費・運営費、救護衛生費等が含まれる。</p> <p>※本大会は、大地震などの自然災害や未知の感染症が発生した場合など、大会を中止する場合がある。その場合、納入いただいた参加費は、大会準備に要した諸経費を差し引いた額を返金することとする。</p> <p>※日本連盟事務局は、確定申込書受領後、参加費の納入等を確認のうえ、参加章等その他必要な物品と書類を、県連盟を通して参加隊および本部スタッフに送付する。</p> <p>※外国派遣団、ガールスカウト、関係諸団体等の加盟員以外の参加者は、申込手続の関係から、参加費を参加確定申込時に一括して納入することができる。</p>

◆組織

<p>大会準備の ための組織</p>	<p>日本連盟理事会のもとに「11NA実行委員会」を編成し、大会運営に必要な準備を推進する。また、具体的な企画・諸準備のために専門部会を設置する。</p>
<p>期 間 中 の 組 織</p>	<p>大会期間は、実行委員会・専門部会を中心に編成される大会本部が運営にあたる。大会組織は6頁の図の示すとおりとする。</p>

◆大会日程・基本日課

6頁に示すとおりとする。プログラムの細部は別に定める「参加の手引き」「プログラムガイド」等により示す。

◆プログラムの基本方針

大会の目的・コンセプトに沿って、希望が丘文化公園の施設を活用しながら、日本一の湖をもつ滋賀県の特徴を活かしたプログラムを設定する。

会期中は、日々のテーマを設定することで全参加者がテーマに沿った体験を共有し、ゆとりある時間の中で無理なく活動するよう配慮する。

◆会場の利用計画

今大会は、希望が丘文化公園の青年の城を中心とした「文化ゾーン」と「野外活動ゾーン」を主な会場として使用する。既設の上下水道、浴場、便所等を利用するが、参加人数に応じて仮設設備（トイレ等）を設置する。

◆参加者の生活

	参加隊	本部スタッフ
宿 泊	キャンプ場を利用した野営生活を基本とし、各参加隊にキャンプ地を割り当てる。	青年の家での舎営または周辺での野営とする。
食 事	期間中を通じて給食または弁当食を受ける。 ※選択プログラムで野外料理（昼食）を選択することもできる。	期間中を通じて給食または弁当食を受ける。
その他	特別な配慮を必要とするスカウトへの生活と食事の対応、および支援については、別に定める。	業務は、青年の家を中心とした大会本部で行う。

◆食事の提供

区分	方法	提供内容
参加隊	給食	8月2日（木）夕食分から8月6日（月）昼食分までの12食分 本部食堂での給食または弁当食の配給を受ける。
本部スタッフ	給食	8月1日（水）夕食分から8月6日（月）昼食分までの15食分 本部食堂での給食または弁当食の配給を受ける。

◆服 装

- *参加者の服装は制服とし、正装上着の右胸ポケットに参加章を着用するとともに派遣団員章（日の丸）を世界スカウト章の上部に着用する。
- *開会式、閉会式は正装で参加する。
- *自隊のサイト内および作業時は、活動の内容により参加隊長の判断で軽装を着用してもよい。

◆携 行 品

- *快適なキャンプ生活を維持し、かつ楽しいアグーナリー活動が展開できるよう、簡素で、しかも精選されたものを準備する。これらの携行品等は準備訓練で十分慣れ親しんでおく。
- *その標準は、次のとおりとする。

個人携行品	隊携行品
<input type="checkbox"/> 制服 <input type="checkbox"/> 水筒 <input type="checkbox"/> 作業着 <input type="checkbox"/> 洗面具 <input type="checkbox"/> 着替え、寝巻き等衣類 <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> 運動靴 <input type="checkbox"/> 救急用品（持薬等） <input type="checkbox"/> 水着 <input type="checkbox"/> 寝袋 <input type="checkbox"/> 参加カードや健康調査書など大会本部から配付されたもの <input type="checkbox"/> 雨具 <input type="checkbox"/> 健康保険証のコピー <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 食器（個人用） <input type="checkbox"/> その他必要と思われるもの	<input type="checkbox"/> テント <input type="checkbox"/> 工具 <input type="checkbox"/> 灯具 <input type="checkbox"/> フライシート <input type="checkbox"/> 隊旗 <input type="checkbox"/> 隊救急用品 <input type="checkbox"/> その他必要と思われるもの

◆救護衛生と安全

個人衛生	参加隊指導者は、参加スカウトの保険衛生に十分留意する。特に会場は夏場には高気温となるので、その備えが必要である。
応急手当	参加隊指導者は、あらかじめ参加スカウトの持病、アレルギー、特異体質、服用中の薬品等を把握するとともに、軽度な傷病に対して衛生材料等を備える。 大会本部は、期間中の参加者の負傷や急病に備え、衛生材料と傷病者のための施設等を準備し、会場周辺の医療機関の協力を得て傷病者の搬送と受け入れ態勢を整える。
安全管理	別に「安全管理ハンドブック」を作成し、安全指導に万全を期するとともに、事故発生時の対応に備える。
保 険	加盟員にあつては「そなえよつねに保険」と賠償責任保険で対応し、加盟員外にあつては国内旅行傷害保険・賠償責任保険を付保する。

◆輸送

- *参加者の集散および装備品の輸送については、参加隊の責任において行う。
- *大会の輸送についての細部は、別に定める「参加の手引」等に示す。

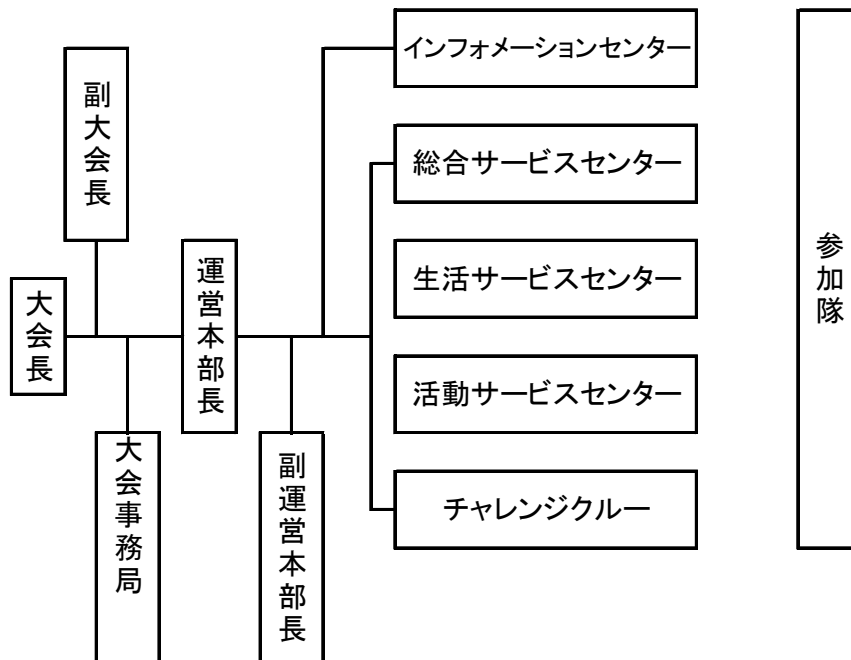
◆入場・退場

区分	入場	退場
参加隊	8月2日(木)14時までに受付を完了する。 開会式までに設営を完了する。 参加申込を越える追加参加は認めない 到着手続きは、別に定める。	8月6日(月)9時から、一斉に環境整備を実施する。その細部は、別に示す。 8月6日(月)12時までに会場を出発する。 退場手続きは、別に定める。
外国派遣団	外国派遣団の入・退場については総合センター国際班が担当する	
本部スタッフ	大会前日の8月1日(水)13時までに会場に集合し、各部署で到着手続きを済ませた後、業務の準備作業を行う。なお、チャレンジクルーのスタッフは事前研修に参加する。	8月6日(月)15時までに会場を出発する。

◆大会の見学および訪問

- *スカウト、指導者ならびに一般の見学および訪問を歓迎する。
- *見学時間および訪問に関する事項は別に定める。
- *見学および訪問者の輸送、宿泊、給食等は、各自の責任において実施する。

◆大会組織図



◆大会本部各部所掌業務

部署	所掌業務
総合サービスセンター	総務、広報、国際、輸送、施設・資材に関すること
生活サービスセンター	参加者の野営・舎営生活、配給・本部食堂、応急手当に関すること
活動サービスセンター	全体行事、場内外プログラム、信仰奨励、参加者の交流、本部スタッフの事前研修に関すること
チャレンジクルー	大会本部各部の支援と参加隊の支援に関すること

◆日程と基本日課

	前日 8月1日(水)	第1日 8月2日(木)	第2日 8月3日(金)	第3日 8月4日(土)	第4日 8月5日(日)	第5日 8月6日(月)
	研修・準備	集合・開会式	プログラム	プログラム	交流日	閉会式・解散
06:00		起床	起床	起床	起床	起床
07:00						
08:00		朝食	朝食・朝礼	朝食・朝礼	朝食・朝礼	朝食・朝礼
09:00		本部スタッフ (業務準備)	プログラム	プログラム	信仰奨励	環境整備
10:00		チャレンジクルー (事前研修)			閉会式	
11:00						
12:00		参加隊			プログラム	プログラム
13:00	本部スタッフ集合	集合・受付	1日目	2日目	3日目	撤 営
14:00	本部スタッフ (業務準備)	設 営				
15:00	チャレンジクルー (事前研修)				夕食	
16:00						
17:00	夕食		夕食	夕食		
18:00	夕食				滋賀の夕べ	
19:00	全体会議	開会式	国際交流の夕べ	フォーラム		
20:00	業務別会議	連絡会議	連絡会議	連絡会議	連絡会議	
21:00	準備作業	就 寝	就 寝	就 寝	就 寝	
22:00	消 灯	消 灯	消 灯	消 灯	消 灯	

※上記は予定であり、今後変更される場合があります。

基 本 日 課

起床	6:00	午後の活動	13:30～16:00
朝食	7:30	夕食	17:30
国旗掲揚	8:30	国旗降納	18:00
午前の活動	9:00～11:30	夜の活動	19:00～20:00
昼食	12:00	連絡会議	20:00～21:00
休憩	13:00～13:30	就寝	21:00
		消灯	22:00

第11回日本アグーナリーに関する留意事項

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟では、本大会の開催に向けて、次の留意事項を大会参加の有無に関係なく、広く周知してまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

1. 環境に配慮した行動

本大会は、運営はもとより、大会参加者についても、環境に配慮した行動を心がけ、環境への負荷を少なくした大会とする。

2. 個人情報と写真・映像の取り扱い

大会の参加申し込み等によって得た個人情報ならびに健康状態等は、参加者管理のための参加者名簿・参加者データを作成し、大会運営に使用する。また、参加のための情報提供ならびに運営業務によって、外部委託先に個人情報を提供することがある。

個人情報の保全・安全管理については、個人情報の保護に関する法律に基づき適切に取り扱い、大会業務終了後には速やかに廃棄する。

大会記録用として撮影した画像、映像はすべて公益財団法人ボーイスカウト日本連盟に帰属することとする。参加者の写真や映像は、記録映像、ホームページ、報告書等の大会の記録に使用する他、スカウティング誌、各種パンフレット等のボーイスカウト運動普及・振興のために使用する場合がある。使用に際しては、できる限り個人の特定ができないように配慮する。

参加者の個人情報の収集・利用、写真・映像の使用については、参加申し込みをもって承諾を得たものとし、見学者や協力者等もこれに準ずる。

3. 加盟員関係者を含む近隣地域でのキャンプの禁止

加盟員関係者が会場の近隣地域でキャンプを行うことによって、本大会との関連性や混同等のトラブルを避けるため、会期中は、会場から5km以内の範囲でのキャンプを禁止する。

4. 関係者への連絡

開催地の自治体、協力機関および周辺の住民に対して、大会に関する連絡を行う場合は、必ず日本連盟事務局を経由しなければならない。

5. シンボルマーク・商標の取り扱い

日本連盟の許可なしに、本大会のシンボルマークや日本連盟の商標を付した製品を製作、販売する場合は、「スカウト章（世界スカウト章を含む）の取り扱いに関する取り決め」（日本連盟規程集・平成23年版は206頁に記載）に基づき行うこととする。

6. 商品販売

日本連盟は、商品販売を行う売店地域を会場内に指定し、事前に販売品目および価格の調整を済ませた者だけが販売できる。会場では参加者に必要な土産品、日用品、サービスを基準に販売が許可される。危険物や参加者に悪影響を及ぼす恐れのある品物は販売できない。

また、日本連盟は、大会への支援者・協力者を考慮して、一部の販売品目について銘柄等、取扱商品を指定する場合がある。

参考資料

〈“アグーナリー”（AGOONOREE）とは〉

ギリシャ語の「AGOON」（集会、競技会の意）からきた言葉で、ボーイスカウト用語としては、1か国あるいは数か国の障がいスカウトが集まって開く行事を表す。

単にアグーン「AGOON」とする場合もあるが、ジャンボリー「JAMBOREE」やキャンボリー「CAMPOREE」のように「OREE」をつけて、アグーナリー「AGOONOREE」と呼ぶようになった。

回数	開催年月／開催場所	テーマ	参加者		
			人数	国数	海外
1	昭和48.8.17～20 愛知県 県立愛知青少年公園	かぎりなく、はばたこう	200	—	—
2	昭和51.7.30～8.3 愛知県 県立愛知青少年公園	のりこえよう大地をふんで	336	—	—
3	昭和54.8.3～7 大阪府 大阪市長居公園	のりこえよう大地をふんで	660	11	32
4	昭和58.8.5～9 兵庫県 県立嬉野台生涯教育センター	のりこえよう大地をふんで	972	15	49
5	昭和62.7.31～8.4 静岡県 国立中央青年の家	のりこえよう大地をふんで —富士のふもとで、元気にはばたこう—	989	14	95
6	平成3.7.25～29 東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター	のりこえよう大地をふんで	851	13	76
7	平成7.7.26～30 新潟県 国立妙高少年自然の家	広がる夢 友情の輪	880	16	99
8	平成11.8.5～9 愛媛県 松山市野外活動センター	広がる夢 友情の輪 —あいことばは、“We can”—	1,143	15	130
9	平成15.7.31～8.4 石川県 「りふれっしゅ村 鉢ヶ崎」	広がる夢 友情の輪 —あいことばは、“We can”—	1,252	0	0
10	平成20.7.31～8.4 兵庫県 神戸市総合福祉ゾーン 「しあわせの村」	We can! あなたといれば…	1,078	6	89
11	平成24.8.2～8.6 滋賀県 希望が丘文化公園	We can! あなたといれば…	1,000		100

■ 「障がい児スカウティング」と日本アグーナリーの沿革と現況

1907年に始まったボーイスカウト運動は、その直後から障がい者と積極的にかかわってきた。スカウト運動が始まった20世紀初めには、障がい者は一般社会から隔離され、生きていくうえでの制限を受けていた。この状況を見て、スカウト運動は、その奉仕と助け合いの方針にしたがって、病院や施設でのプログラムを取り入れた。

1911年には、アメリカにおいて盲児を対象とするボーイスカウト隊が発足し、1927年には、英国で組織的に障がい児スカウティング部門が置かれた。その後、スカウト運動の広まりとともに、多くの加盟国において、この活動が進められた。それぞれの国が取り組む障がい児の福祉事業に応える形で発展し、1961年には46の加盟国、1970年にはすでに78もの加盟国がこの運動を実施していた。

世界組織としては、1954年にはボーイスカウト国際委員会（後の世界スカウト委員会）に「国際障がいスカウト活動諮問委員会」（International Advisory Committee on Scouting with the Handicapped）が置かれた。この運動は“Extension Scouting”（※1）とも呼ばれ、1965年には、世界事務局から指導者のための手引き書“These our Brothers”が発行された。1969年には、世界事務局の下部組織の小委員会の一つとして「エクステンションスカウティング小委員会」（World Extension Scouting Sub-Committee）が設置され、「障がい児のために」あるいは「共に」というニュアンスから、スカウト活動そのものを「拡張する」という方向に重きをおいた運動が推進された。同年には西ドイツで初の「障がい児スカウティング国際会議」も開催された。

その後、長年にわたり「障がい児スカウティング」（“Scouting with the Handicapped” または “Extension Scouting”）として活動が行われてきた。しかし、それは障がい者と共に行うスカウティングというよりも、障がい者のためのスカウティングであった。また、障がいのある者と障がいのない者が共に活動するというより、一つの奉仕活動といった意味合いが大きかった。

ボーイスカウト日本連盟は、1972年に組織的な活動を始め、「福祉元年」と言われた1973年には、早くも第1回日本アグーナリーを開催したり、指導者対象のセミナーを行うなど、積極的にこの分野に取り組んできた。当初の日本アグーナリーは、日常のスカウト活動では障がいがあることで実施が難しい活動をプログラム化し、障がいを乗り越えがんばるスカウトの育成をねらうとともに、また併せて障がい児スカウティングに取り組む指導者の研修・交流の場としてのねらいも位置づけられた大会であった。日本アグーナリーはほぼ4年ごとに継続されている。

第8回日本アグーナリーにおいて、三笠宮寛仁殿下より「我が国では障がい児の余暇活動は福祉が対応してただけに社会教育団体であるボーイスカウトが継続的に取り組んでいることの意義は大きい」とのおことばをいただくなど、パイオニア的存在であるといえる。

ノーマライゼーション（※2）の理念が社会に浸透されはじめ、従来、福祉施設や学校、親の会が基盤となる障がい児団中心の障がい児スカウティングから、地域の一般団に障がい児が入団し共に活動する姿が多く見られるようになってきた。日本アグーナリーにおいても、近年は「共生」をねらいの一つとして行っている。障がいのあるスカウトには、障がいがあっても臆することなく何事にもチャレンジし、もてる力を最大限発揮できるスカウトをめざすこと、そしてベンチャースカウトなどは、実際に障がいのある人とのキャンプ生活を体験し障がい者と共に生きるための学習を積む場とすること、この両面を兼ね備えた日本アグーナリーに発展してきている。

第8回日本アグーナリーでは、全国各地より予想を超える多くの奉仕隊スカウトの参加があり、また、ガールスカウトのシニアスカウトにおいては各支部において障がい理解に関する事前研修を積んだスカウトの派遣を受け入れた。そこで第9回では、317人という多人数となった奉仕隊スカウトを、初めて大会前日に障がい理解に関する研修をプログラムに位置づけ実施した。

近年、日本アグーナリーをモデルとしたアグーナリーがオーストラリアや韓国で開催されるなど、国際的にも我が国の障がい児スカウティングは注目されている。

- ※1 “Scouting with the Handicapped” や “Extension Scouting” という表現は、特に障がい児（者）のスカウティングを一般のスカウティングと区別することになるため、現在では “Scouting for all” という表現を用いることで、障がいのある人々（the Disabled）ばかりでなく、恵まれない環境での生活を余儀なくされている人々（the under Privileged）や特別支援（Special Needs）を必要とする人々を含めて、スカウティングがすべての青少年に開かれた運動であるということより強調するようになっている。

- ※2 高齢者も若者も、障がい者もそうでない者も、すべて人間として普通（ノーマル）の生活を送るため、共に暮らし、共に行き抜くような社会こそが普通であるという考え。
「ノーマライゼーション」

『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』。2007年3月31日（土）13:17

ノーマライゼーション（normalization）は1960年代に北欧諸国から始まった社会福祉をめぐる社会理念の一つ。障がい者と健常者とは、お互いが特別に区別されることなく、社会生活を共にするのが正常なことであり、本来の望ましい姿であるとする考え方。またそれに向けた運動や施策なども含まれる。

第1回大会から第10回大会のシンボルマーク



第1回



第2回



第3回



第4回



第5回



第6回



第7回



第8回



第9回



第10回

第11回日本アグーナリー 大会ホームページ

<http://www.scout.or.jp/event/11NA/>



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

〒113-0033 東京都文京区本郷1丁目34番3号
(教育部直通) 電話 03-5805-2634 ファクシミリ 03-3830-3678
ホームページ URL <http://www.scout.or.jp>